

平成 30 年度  
事業報告書

島根県西部視聴覚情報センター

## 1 施設名称

島根県西部視聴覚障害者情報センター  
(開設 平成 12 年 4 月 1 日)

## 2 所在地

浜田市野原町 1826-1 いわみーる 2F

## 3 課題解決に向けた取組

### 『利用者の拡大』

課題	<p>地域住民にセンターが十分に認知されておらず、管内の視聴覚障がい者の利用登録率が低いため、あらゆる機会をとらえてセンターの存在及びサービス内容の周知を図る必要がある。</p> <p>センターを知っていても利用しない視聴覚障がい者がいることから、対象者のニーズに即し、利用の増加につながるようなサービスを提供していく必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県の広報媒体を使ってセンターの業務内容の周知を図るよう依頼する。</li><li>・ 各市町の福祉窓口でセンターのパンフレットや利用案内（墨字・点字・録音）、広報用チラシを送付し、身体障害者手帳の申請時等にセンターの紹介と適切な資料の配布を依頼する。</li><li>・ 各市町又は各市町社会福祉協議会の広報紙及びホームページにセンターの紹介記事を掲載するよう依頼する。</li><li>・ 国や県の機関、公共施設、社会福祉施設、眼科医等を訪問し、来訪者へセンターの広報用チラシを配布するよう依頼する。</li><li>・ センターが参加するイベントで広報用チラシを配布する。</li><li>・ センターのホームページ及びフェイスブックで施設情報を発信する。</li><li>・ 新たな手話動画を制作し、ホームページに掲載する。</li><li>・ 昨年度から開始した「スカイプを使った電話リレーサービス」について、チラシ配布等により周知を図る。</li><li>・ 毎年開催している事業推進会議、関係機関・団体との個別協議等で提出される意見や要望を基に利用者ニーズを把握し、利用の増加につながるような新サービスの提供を検討する。</li><li>・ 引き続きマルチメディアデイジー図書製作の可能性を検討する。</li></ul>

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の身体障害者手帳交付窓口センターの利用案内（墨字・点字版、音声版）パンフレットを配布し、手帳交付時にセンターの紹介を依頼した。</li> <li>・県の広報媒体によりセンター業務内容周知を依頼し、掲載してもらった。</li> <li>・点字図書館の新規利用者2名団体4増、聴覚ライブラリー新規利用者は無であった。</li> </ul>
----	--

### 『関係機関・団体との連携』

課題	<p>視聴覚障がい者の自立生活、社会参加の促進に向け、関係機関・団体との意見交換等を行い、相互の連携をより緊密にするとともに、センターの事業の周知や見直しを通して利用者の拡大につなげていく必要がある。</p> <p>意見交換等で明らかになった各市町の課題について、対応方針等を確認し、センターとして課題解決に向けた取組にできる限り協力していく必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月下旬に事業推進会議を開催し、センターの現状や課題、本年度事業計画、利用者の実情やニーズ等について意見交換を行い、事業の推進に協力を求める。</li> <li>・9～11月に各市町を訪問し、事業推進会議で取り上げられた課題のフォローアップ、平成31年度における新たな取組等について意見交換を行う。</li> <li>・必要に応じて浜田ろう学校、全視情協島根あさひ事業所、各市町社会福祉協議会等を訪問し、意見交換を行う。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月22日県障がい福祉課、管内市町、視聴覚障がい団体等の参加を得て事業推進会議を開催し、当センターの課題や取り組みを説明し、意見聴取と協力依頼を行うとともに各市町、団体と情報交換を行った。</li> <li>・障がい者団体の会議に参加し、意見交換を行った。</li> <li>・浜田ろう学校を訪問し、意見交換を行った。</li> <li>・聴覚障害者情報センターの運営会議に参加し、事業の状況や聴覚障がい者をめぐる課題等を共有した。</li> </ul>

### 『各種ボランティアの養成・確保』

課題	<p>近年、センターが開催する各種ボランティア養成講習会の受講者が少数にとどまっており、様々な方法でボランティア募集の周知を図る必要がある。</p> <p>情報化の進展によりボランティア活動に必要な技術が高度化しており、養成講習修了者に対するスキルアップの機会を設け、より実践的な技術を身に付けたボランティアを育成していく必要がある。</p> <p>意欲のあるボランティアに対しては、モチベーションを維持し、長期にわたって活動してもらえよう、高度な技術を身に付ける機会を提供する必要がある。</p>
----	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実行計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使って各種ボランティア募集の周知を図るよう依頼した。</li> <li>・各市町又は各市町社会福祉協議会の広報紙及びホームページにボランティア募集記事を掲載された。</li> <li>・国や県の機関、民間団体、企業等を訪問し、ボランティア募集チラシの従業員回覧や来訪者配布を依頼する。</li> <li>・養成講習修了者を対象としたスキルアップ講習会を定期的に開催する。</li> <li>・ボランティアグループの自主的勉強会に職員を派遣し、スキルアップを支援する。</li> <li>・高度な技術の習得に意欲的なボランティアを点字指導員講習会、音訳指導技術講習会等に派遣する。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使って各種ボランティア募集の周知を図るよう依頼し、フォト島根に掲載された。</li> <li>・各市町広報紙で、各ボランティア養成講習会（点訳・音訳・テキストデジエー編集）の受講募集記事がそれぞれ掲載された。</li> <li>・点訳ボランティアのスキルアップ講習会を毎偶数月に実施した。</li> <li>・3つの点訳ボランティアグループの自主的な勉強会へ職員を派遣した（2グループは毎月1回、1グループは毎奇数月1回）</li> <li>・3つの朗読ボランティアグループの自主的な勉強会に職員を派遣した（2グループは毎月1回、1グループは年4回）</li> </ul>

『意思疎通支援者等の養成・確保』

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題</p>	<p>視覚障がい者の自立生活、社会参加を促進するため、同行援護従事者、ガイドヘルパーの養成を支援するとともに、代読・代筆の能力を有する人材の育成を促す必要がある。</p> <p>聴覚障がい者の自立生活、社会参加を促進するため、各市町の手話奉仕員養成の取組を支援する必要がある。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実行計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会等が行う同行援護従事者及びガイドヘルパーの養成研修に職員を講師として派遣する。</li> <li>・各地域で活動する点訳・音訳奉仕員の養成・確保について、各市町、ボランティア団体等と今後の対応を協議する。</li> <li>・市町が実施する手話奉仕員養成講習に対して人的な支援（講師派遣、相談等）を行う。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の同行援護従事者及びガイドヘルパーの養成事業に職員を講師として派遣した。</li> <li>・江津市及び浜田市手話奉仕員養成講習会に手話通訳士の資格を有する職員を講師として派遣した。</li> </ul>

## 『職員の専門的能力の育成』

課題	<p>限られた人員で効率的に業務を遂行するため、一人の職員が複数の資格や専門的な能力を身に付ける必要がある。</p> <p>視聴覚障がい者を取り巻く状況を把握し、社会福祉制度や日常生活用具等の情報を利用者や関係機関・団体、支援者等へ的確に提供できるようにする必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度、職員の一人が点字指導員資格認定講習を受講するための事前の試験に合格したことから、引き続き OJT を実施し、点字指導員の資格取得を目指す。</li> <li>・全国視覚障害者情報提供施設協会、中国四国点字図書館連絡協議会等が主催する研修会に職員を派遣する。</li> <li>・年間 6 回の所内研修を行い、視聴覚障がい者を取り巻く社会状況、社会福祉制度、日常生活用具等について理解を深める。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字指導員の今年度資格取得のため引き続き OJT を実施する。</li> <li>・関係団体が主催する研修等へ職員を派遣した。</li> <li>・年間 6 回の所内研修を計画し、5 回実施した。</li> <li>・9 月から職員会議を毎月実施するようにした。</li> </ul>

## 『視覚障がい者の ICT 活用の支援』

課題	<p>パソコン、プレクストーク（視覚障がい者用ポータブルレコーダー）等の情報機器を使用していない視覚障がいの利用者とその利用を促す必要がある。</p> <p>高度化する利用者のニーズに応えるため、職員の視覚障がい者 ICT 活用支援能力を高めるとともに、必要に応じてボランティアの技術向上を図る必要がある。</p> <p>情報機器を使用できない利用者に対して配慮した情報提供に努める必要がある。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会を通して視覚障がいの利用者に対して情報機器の利用を呼び掛け、そのための講習等を実施する。</li> <li>・OJT 等により職員の視覚障がい者 ICT 活用支援能力を高める。</li> <li>・必要に応じてパソコンボランティアのフォローアップ講習を実施する。</li> <li>・情報機器が使用できない利用者に対して、センターがリクエストに応じて「サピエ」等から情報をダウンロードして提供する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で最新情報機器やソフトの情報を共有するように所内研修を行った。</li> <li>・IT 講習、集合研修 2 回（参加スマホ体験 5 名 オーカムマイアイ 15 名）実施した。</li> <li>・情報機器が利用できない利用者に対して、リクエストに応じて「サピエ」から点字データ、デイジーデータをダウンロードして貸し出しをした。</li> </ul>

### 『機器情報の提供』

<b>課題</b>	<p>補装具・日常生活用具等の技術開発は目覚しく、利用者に最新の機器やソフトの情報を積極的に提供していく必要がある。</p> <p>カタログだけでなく、利用者が実際に機器を試用し、その利便性を確認の上で購入することが大切であるため、最新の機器の整備に努める必要がある。</p>
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者向け新聞・雑誌、インターネット、メーカー等から最新の機器やソフトの情報を収集し、利用者に提供する。</li> <li>・管内4箇所で開催機器展示相談会を開催し、展示用補装具・日常生活用具やメーカー出展の最新機器等により来場者への紹介、試用等を行う。</li> <li>・予算の許す限り展示用補装具・日常生活用具等の更新を行う</li> </ul>
<b>評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の相談等に対して最新の情報提供をするように努めた。</li> <li>・管内2箇所で開催機器展示会を開催した。</li> <li>・かわらばんに毎回機器情報を掲載した。</li> <li>・ソフトのバージョンアップ、便利グッズ、日用品等の更新を行った。</li> </ul>

### 『地域活動の実施』

<b>課題</b>	<p>視聴覚障がい者にとって暮らしやすい共生社会の実現に少しでも貢献できるよう、ボランティアや意思疎通支援者、視聴覚障がい者団体等の協力を得て、予算、マンパワーが許す限り積極的に地域活動を行っていく必要がある。</p>
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や団体の福祉学習を積極的に引き受けるとともに、浜田市健康福祉フェスティバルに参加し、児童生徒や住民の視聴覚障がいへの理解を促進する。</li> <li>・官公庁や公共施設等へ出向き、窓口職員を対象として「窓口での聞こえにくい・聞こえない人とのコミュニケーション講座」を実施する。</li> <li>・視覚障がい者の来訪がある職場に出向き、「視覚障がい者対応研修」を実施する。</li> <li>・公的機関・団体が使用する封筒の点字印字を積極的に引き受ける。</li> </ul>
<b>評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田市生活べんりグッズ展来場者46名、益田福祉ぞんふれあいまつり出展来場者86名。参加者に対して機器利用説明、利用体験を実施した。</li> <li>・封筒の点字印字の取次ぎ・斡旋を引き続き行った。</li> </ul>

### 『島根あさひ社会復帰促進センターの活用』

<b>課題</b>	<p>増大する利用者の要望に応じていくため、より多くの作業を「あさひ」に依頼する必要がある。</p>
-----------	--

<p>実行計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの図書のテキストデータ化作業を引き受けてもらえるよう「あさひ」と協議する。</li> <li>・利用者ニーズに沿った新サービスの提供に向け、「あさひ」の活用可能性を検討し、新たな作業の依頼について「あさひ」と協議する。</li> </ul>
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・31タイトルの図書のテキスト化を依頼した。</li> <li>・CD、カセットテープのダビング及びデジ→アナ変換の依頼をした。</li> </ul>